



コミュニティ・スクールとして先導する 杉並区立天沼小学校



このシリーズの第1回として、天沼小学校を訪ね松野泰一校長先生からお話を伺いました。

★概要

天沼小学校（以下「天小」）は、杉並区初の統合新校として、杉並第五小学校と若杉小学校が統合して2008年4月に開校された小学校です。在籍する児童数は634名（2019年5月1日現在）、20の通常学級と特別支援（「こだま」）学級からなります。天小は、四面道から日大二高に向かうバス通りに面しており、校舎は2011年1月に杉五小の跡地に建て替えられた省エネ等の先端的建物です。

★学校の特徴

天小の大きな特色は「コミュニティ・スクール（CS）」であることで、区内でその先導的役割を担っています。CSとは、地元住民も入った「学校運営協議会」の参画によって学校運営を進め、そこに「学校支援本部」が加わって「特色ある教育活動」などを支援し、地域と学校が一体となって学校づくりを推進することを指しています。「学校運営協議会」は地域住民や保護者等が、教育委員会や校長と責任を分かち合いながら学校運営に関わっていく仕組みです。一方「学校支援本部」は地域住民のボランティアによって担われている組織で、天小では「あまめまワンダラーズ」と呼ばれています。そのような努力が実って、2015年には「地域における学校支援活動」に対し文部科学大臣表彰を受けています。



運動会、「天沼伝」の演技



端末を活用したICT授業

また、天小は大規模災害のときには避難所となるため、地域の防災計画と定期的な防災訓練に積極的に参加し、地域自治のプラットフォームの役割も担っています。

★教育活動

天小が「特色ある教育活動」としてあげているものに①「読書活動」、②「キャリア教育」、③「日本の伝統・文化理解教育」、④「ICTと情報教育」等があります。

①「読書活動」では、おはなし会や読み聞かせ、天沼中との小中連携によって9年間で読む本の紹介などを進めています。子供たちの読書の時間が少なくなっているのは確かですが、本や読むことが嫌いなのではないという認識を校長先生から伺いました。

②「キャリア教育」では、学校支援本部の支えがあって遂行が可能になっているとのこと。地元商店街でのお店番体験や、子供たちが具体的な事業の「起業」を体験する「天沼会社経営プロジェクト（AKP）」を実施しています。

③「日本の伝統・文化理解教育」では、低学年では「昔あそび」を地域のおとなから習ったり遊んだりすることから始め、茶道、華道体験等も行っています。

④「ICTと情報教育」では、タブレット端末を3年生以上に、1人1台行きわたるよう約400台保有しており、この分野のモデル校となっているとのこと。情報リテラシーだけでなく情報モラルの体得も目標に入れています。成果のひとつとして、端末を使ったプレゼンテーション能力の向上があるとのこと。

これらは、「総合的な学習の時間」で行われることが中心ですが、他の教科の学習にも役立っているとのこと。

★松野校長の願い

松野先生は日々更新の校長室ブログにて天小の現状について情報発信をなさっています。また特色ある学校づくりとして、「不易と進化」を挙げられ、変えてはいけないことは大事にしながら、日々進化を図っていく小学校でありたいと抱負を語っていらっしゃいました。

杉並区立天沼小学校

住所:167-0032東京都杉並区天沼2-46-3 電話:03-3392-6428
ホームページ:www.suginami-school.ed.jp/amanuma_es/